目標1 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

アバターを安全かつ信頼して利用できる社会の実現

ここから、新・未来へ
MOONSHOT RESEARCH & DEVELOPMENT PROGRAM

Project manager

(2022 年度採択)

新保 史生

慶應義塾大学 総合政策学部教授

代表機関

慶應義塾大学

研究開発機関

大阪大学、学習院大学、京都大学、慶應義塾大学、国際大学、静岡大学、東京大学、麗澤大学

プロジェクト概要

社会で CA（サイバネティック・アバター）を安全かつ安心して利用するため、CA 操作者の認証(利用者認証)、操作者本人の公式 CA であることの証明(CA 認証、CA 公証)により実現される CA 安全・安心確保基盤の実現を目指します。アバター生活実現のために克服すべき社会的・制度的な課題を解決するため、「倫理・経済・環境・法・社会（Ethical, Economic, Environmental, Legal, and Social Issues：E^3LSI：「イーキューブ・エルシ」と呼びます)に関わる課題を明らかにし、国内外の技術・制度的課題解決に向けた提言を行います。

CA の社会受容性を高めることで、CA が分身となり他者と接する世界、CA 同士が接する世界、すなわち、CA を介した新たなコミュニケーション文明が開化することを目指します。

2030年までのマイルストーン

【CA 安全・安心確保基盤の構築】

2030 年までに、CA の安全・安心確保基盤及び社会受容基盤を構築することにより、望む人は誰もが身体的・認知・知覚能力を拡張して生活することができる社会の実現を目指します。そのために、操作者のなりすまし、CA の乗っ取り、CA 内に蓄積される技能・経験情報等の不正取得（違法で不正な技能取得)、CA を使った技能模倣を抑止し、安全・安心・高信頼な CA の操作環境を実現します。

【E^3LSI 課題・政策展開】

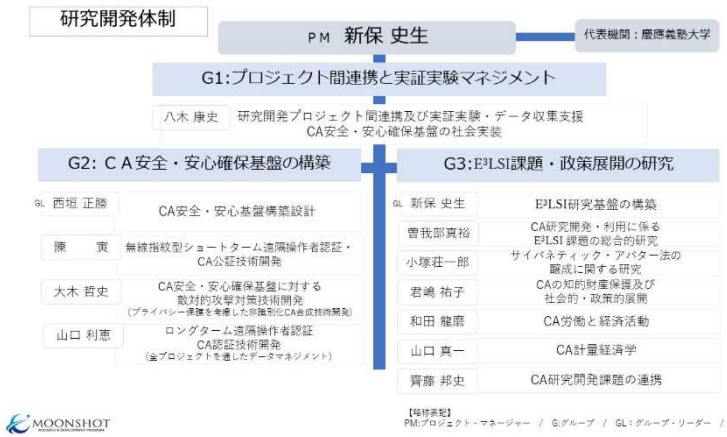
個人の権利利益保護と CA 安全・安心確保基盤に係る制度を両立させるための制度的枠組みを提示し、安全・安心な CA 社会受容基盤を構築します。CA の研究開発及び社会実装に必要なあらゆる課題解決への方途を導くことができる研究体制を確立し、E^3LSI 課題への即応かつ時宜に応じた対応を可能にします。

2025年までのマイルストーン

2025 年までに、他のプロジェクトが開発するソシオ CA、体内 CA に対して、適用可能な利用者認証・CA 認証・CA 公証技術を提案し、これらを組み合わせながら各 CA サービス実証実験を積み重ねることによって、操作者のなりすまし、CA の乗っ取り、CA 内に蓄積される技術情報等の不正取得（違法で不正な技能模倣）を抑止し、安全・安心・高信頼な CA 操作を実現するために必要な CA 安全・安心確保基盤の構築を目指します。

CA 安全・安心確保基盤の構築に必要な制度を整備するために必要な課題の検討や、個別の倫理・経済・環境・法・社会課題の総覧を通して、CA の E^3LSI 課題を総合的かつ持続的に研究することが可能な研究体制の整備を目指し、E^3LSI 課題研究基盤の構築及び国内外への CA 研究開発の政策的展開に向けた取り組みを実施します。

研究開発体制(2024 年 4 月時点)



国立研究開発法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency